

中米ホンジュラスで感じた日本

森山 美鈴

(18-1, ホンジュラス, 小学校教諭,)

18年度1次隊、中南米にあるホンジュラスという国で小学校教師として活動しました、森山美鈴と申します。今は大阪府の豊中市立北条小学校というところで今年は五年生の担任をしています。

ちょっとお聞きしたいのですが発表の前に、ここにいらっしゃる方はどういう方かなっていうのを聞きたいのですが、よろしいでしょうか。協力隊に参加予定または興味があつて、「ここに行かれる」っていう方はどのくらいいらっしゃいますか？OBの方、その他学校関係、文部科学省、筑波大学、JICA関係の方、ありがとうございます。今日発表するのにどういう風に用意していいのか分からなくて、今聞いても内容は変えられなので予定通りいきますが…。

タイトルを「ホンジュラスで感じた日本」という風にしました。私は海外旅行が昔からすごく好きで。そこで、途上国と呼ばれる国も行ったたりして、そこで会った子どもたちが、協力隊へ参加するきっかけとなったのですが、海外に行くと日本ではあり得ないことにたくさん遭遇しますよね。それがたまらなく楽しくて。周りの人からは、「あなたはどこでも生きていけるわ」ってずっと言われていて、協力隊に参加したホンジュラスっていう国も日本と比較して、日本では絶対になんかということがたくさんありました。そういうことを入れながら、今日発表したいなと思ったので、こういうタイトルにしました。

まず、ホンジュラスっていう場所なのですが、最初要請をいただいたときに、アフリカの地図を開きました。なかったもので、後ろの索引でやっと中米のところにあるということがわかりました。国の概要なのですが、面積は日本の約三分の一。ホンジュラスに行ったとき、「日本の面積って何平方キロメートル？」って聞かれたんですね。知っている方、いらっしゃいますか？行かれる予定の方、たぶん聞かれると思います。人口とか、面積とか、宗教とか、すごく色んなことを聞かれるので、私、日本が38万平方キロメートルぐらいだっことを知らなくて、向こうに行って聞かれて急いで調べたので、日本のことを色々知っているっていうことは大事だなって思いました。

人口は、約710万人、民族はほとんどがメスチソと呼ばれる混血、言語はスペイン語、宗教は主にカトリック、キリスト教ですね。これがメスチソの子どもたちです。ちょっと色が黒いような、で、こちらが少数なのですが、北部の方にいるガリフナ族と呼ばれる子どもです。

ホンジュラスには何があるかという、カリブ海があります。山があります。コパン遺跡と呼ばれる世界遺産になっている遺跡があります。で、ホンジュラス人がいます。ホン

ジェラス人は、南国やラテンの方にいる人はだいたいそうなんだと思いますけど、陽気で親切で、とにかく踊ります。時間にルーズでいい加減で、明日のことは明日考えればいいってみんなが言います。

ここから、仕事の話になるのですが、ホンジュラスが抱える問題として、一年生の就学率は90%と高いのですが、六年生で卒業するのはだいぶ下がって、60~70%。この原因は家庭環境、家庭の教育に対する理解が少ない。それから、学校環境が悪い。国内の多くが複式学級で、山の奥のほうに行くと、一人の先生が全部の学年の子どもを教えるという学校も珍しくない。あとは、このホンジュラスという国がとっている留年制度も、かなり六年生の卒業率が低くなっている要因のひとつです。それから最後に、教員の知識、指導力不足。高卒でも先生になれる。国が決めた教えることは一応基本的にはあるんですけど、それがきちんと行き渡っていなく、先生たちは何を教えてもいいくらいに思っています。そこで、一番下の部分に視点を当てて活動したのが、私の仕事です。

ホンジュラスにはJICAによる算数指導力向上プロジェクトっていうのがありまして、それが1989年よりスタートしてずっと続いていました。2005年に児童用作業帳と教師用指導書が完成しています。今日持ってきているんですけど、今日持ってきたのは一年生と六年生用で、ちょっと廻しますね。これが教科書です。指導書も廻します。聞きながら見てもらえたらいいと思います。見ていただいたら分かると思うのですが、日本の算数の教科書とそっくりです。ほとんど同じで、中に出てくるキャラクターなんかほとんど同じのが写っています。私の仕事はその教科書の普及、教科書はでき上がっているのに、学校にある教科書を先生らがいかに使って子どもらに授業をするか、それを通じて教員の指導力向上を目指すというものでした。

私は18年度一次隊なのですけれど、全く同じ要請でホンジュラスに来た小学校教師の隊員が10人くらいいました。それから先輩隊員もいて、今、後輩で19の一、19の二あたりも何人か行っています。グループ派遣といった形だったので、同じ時期に同じ壁にぶち当たって、同じような悩みを抱えたので、困ったときに同じように困っていたので、お互いに色々悩みを分かち合いながら活動できたのはラッキーでした。

私の活動先は、「米百俵学校」と呼ばれるところでした。それは何かというと、日本の新潟県幕末、長岡藩の米百俵の精神っていうのがありますよね。有名なのでご存知の方は多いと思うのですが、お米が不作だったときに、配られたお米をすぐに食べるのではなく、それをお金に還元するか何かをして、学校を建てる。それで、教育のお金にすることで子どもたちに勉強をさせ、その子どもたちが将来その地域を担ってくれるような活動ということで、ホンジュラスの前首相？大統領？が、日本のこの米百俵の精神に感銘を受けて、米百俵プロジェクトが日本政府と共同でスタートしました。今、ホンジュラス国内100校の公立小学校が日本政府の資金協力によって、学校を増改築しています。その中のひとつが私の活動した学校でした。

私の要請には、私が行く学校は、新築の学校と書いてあったので楽しみにしていったの

ですが、行ったらまだできていなかったんですね。「あと二ヶ月後にできるよ」って言われて、二ヶ月待ったのですができなくて、結局四ヶ月後ぐらいに新しい学校に移れました。これが前の学校です。真ん中の写真を見てもらったら分かると思いますが、ひとつの机にぎゅうぎゅう詰め。椅子も入りきらない状態で、右側も見てもらったら分かると思うのですが、すごく暗い教室です。こういう教室がホンジュラスではほとんどです。私の学校はたまたま米百俵学校プロジェクトで建て直って、すごく綺麗になったのですが、そこで、どうなったかという、椅子が全部日の丸で怖いんですけど、ホワイトボードもピカピカで、こんな感じになりました。「米百俵学校」と書いてあります。

愛すべきホンジュラスの学校ということで、こういう風にしたのですけれど、先生はとにかくいかに手抜きをするか、いかに手抜きをして自分の勤務時間を過ごすかという風に見えます、私には。授業中でも携帯や食事はしますし、子どもに授業中もお金を渡して、「ジュース買ってきて」って言います。子どもは何をしているかという、得意技はカンニングです。先生はそれこそ、ご飯を食べたりどっか行ったりしている。一方、子どもはやっぱり与えられた課題を解きたいんですね。書いて丸が欲しい。だから、根本的に分かってなくても、とにかく丸が欲しいから写します、友達のを。分かってなくても先生は絶対なので、「分かりました」って言います。

見えにくいのですが、先生が携帯をいじってます。どんな授業をしているかという、やっぱり、黒板に問題を書いてコピーさせるだけとか、分かる子を前に出してやらすだけという感じの授業になりました。そういう中で私は、算数のことをするのに何をすればいいんだろう。やれと言われてる事は、算数の教科書の普及と教員の指導力向上。でも、学校に教科書配られていなかったんですよ。普及しろって言われても、どうやってしたらいいか分からなかったです。それから、教科書にある指導法を先生たちは分かっています。やる気もないし、知識もない。算数以前に授業の仕方全体の改善が必要だという風になりました。私自身の問題として言葉の壁があって、これは皆さん行かれた方はぶち当たられたと思いますし、これから行かれる方は今後だと思うのですが。その何をすればいいのか、何ができるのかっていうところで、すごく自分の力が試されたような気がします。

旅行では面白いなって思っていたあり得ないこと、先生が授業中に携帯をいじるとか、いつまで待っても授業が始まらないとか、今までだったら面白いと思っていたことが、こうして腰を据えて海外に住み、仕事をする中で、面白いではなくて腹が立って、戸惑いと怒りになって、今まで味わったことのない感覚だったんですね。その時に、私って日本人の感覚を持っているんだなという風に感じました。

日本の学校に当然あるような給食とかチャイムはありません。お母さんたちが頑張って順番に作ってくれば、材料は国連世界食糧計画から配布されていますが、お母さんたちが面倒臭いと言ったら、そういった学校はメリエンダと呼ばれる給食代わりのものはありません。チャイムも、代わりに鐘をカーンと鳴らしたり、チリーンと鈴を鳴らしたりする学校もあるのですが、あんまり時間通りに鳴っている学校はないですね。

ということで、学校単位の活動としては、自分ができることをできる時期に少しずつ探して、学校で復習タイムを取り入れて少しずつやったりしました。それと別にもうひとつ、学校から一歩出て地区単位で、教員対象の算数研修会というのを開きました。それは私が行っていた学校以外の先生方も集めて、全部で 120 人くらいいる地区だったのですが、その先生方に教科書の内容を理解してもらうこと、それから日本では定着している教員の研修の場、学び合いの場や意見交換の場を持ってもらうということで、これは地区の教育事務所の人に声を掛けてやりました。

幸運なことに、すごくいい先生に恵まれて、協力してくれる先生や出席してくれる先生がどんどん増えて、多いときは 70、80 人くらい集まりました。それがそのときの様子です。ホンジュラスの先生方は図形が苦手なのです。分度器を使う角度とか面積、体積、そういったところが、大学、高校であんまり勉強していないのだと思います。全然それが分かってないので、特に苦手としているテーマ、図形系のテーマに絞って、ゲームなんかを交えて先生たちと勉強しました。これは、教材を手作りして、先生たちが実際の授業なんかでも使えるようにしました。分度器も手作り、この立体図形もですね。とにかく時間があるので、教材作りには十分くらい時間がたっぷりありました。

これは食べ物なのですが、今、私五年生を担当していて、あんまり大掛かりなホンジュラスの紹介ができていないのですが、こういうのをスライドを使ったりして、子どもたちが好きそうなテーマで食べ物を紹介したりしています。主食はトルティーヤ。とうもろこしの粉を練ったやつですね。基本的にホンジュラス料理は油がすごく多いです。のどが渴いたらコーラを飲みます。お菓子とともに、砂糖たっぷりのコーヒーが出ます。バナナとかあずきを塩茹でしたものがよく食べられます。これも全部、下の土台はトルティーヤですね。

生き物も子どもたちに見せたのですけれど、近くにたくさん、あと、真ん中の下の鶏は誕生日のときさばいてくれました。全部、一部始終初めて見たのですけど…。

私が住んでいたところはまだだいぶ恵まれていて、電気も水もいつも大体あったので、洗濯は手洗いでしたが、日本に比べると便利とはいえないけれど、自然がたくさんあって、すごく仲のいい家族がいて、親日的なんです、とにかく。「日本、ありがとう。援助してくれて」って。すごく時間がゆったり流れる中で、算数っていうひとつのことだけができるってことで、心にゆとりができていました。日本で働くって結構大変ですよ、日本でずっとできていた口内炎が、ホンジュラスではできなくなりました。

日本紹介も、協力隊のお仕事と書いてあるのですが、たくさん隊員が集まると文化紹介をやったりとか、原爆展をやったりとか、所属学校でも日本の紹介をしたりとかしました。

帰ってきてから特に思ったのですけれど、日本の学校ってやっぱすごいなって思ったんです。施設がとにかく整っている。教科書が毎年全員に配布される。私が行ったとき、ホンジュラスには教科書がなかったもので、特に思いました。これは全国の子どもたちが常に

同じように学習できているっていう、当たり前のようにですけどこれはやっぱりすごいことなんです。そして、先生が教科書の内容を理解している。これも当たり前のことですけど、やっぱりすごいと思います。予定が未定ではなく、ほぼ決定。で、みんなよく働く。当たり前のようなのですけれど、やっぱりすごいと感じました。

一方で、日本って変だなって思ったのは、急ぎすぎなところ。それから、英語で「ハイ」っていうのは、スペイン語で「オラ」っていうのですが、日本語でなんと言うの？と聞かれ、辞書を引いたら「やあ」って書いてあるんですよ。ですが、「やあ」っていう人いますか？いませんよね、普段。「どうも」とかは言うのですが、私はなんて言うかなって思ったんですが、「お疲れ！」とか「お疲れ様」とかを使うんですよ。でもそれって、ドンだけ疲れているの？という感じがして、不思議な言葉だな、不思議な文化だな。あとは最後に必ず「頑張ってるね」と言うんですが、みんなもう十分頑張っているのになって思いました。それから、子どもが大人よりも偉いような風潮がある。学校現場で働いていても、立場が逆転しているようなところがあるなと思います。

「当たり前」ってことをずっと考えてきて、旅行へ行ってもホンジュラスに行っても、自分の思っていた「当たり前」が覆される。面白かったり、腹が立ったりしたのですが、それでもやっぱり、世界全体で共通する「当たり前」っていうものはあるのではないかなって。他にもあると思うのですが、こういったことは普段学校で子どもたちに教えていること、これって間違いではないなって思いました。

最後、「日本人として」と書きましたが……。最後の年帰る前にホンジュラス人のみんなに、「次、いつホンジュラスに来るの？」「あなたに次会うために、僕たちは日本にいけないのだから、あなたが来ないと」って言われたんです。それって私にはたくさんの人生の選択肢があるけれど、向こうの人には私ほどは、ない。私はずっと現地の人とともに同じ目線で活動できたつもりですが、やっぱり私は日本人で、先進国の人間として、今後どんな風に生きていくのかっていうのは大事だなって思って、今、日本の学校で今後自分が、どんな風に、どんなことができるかっていうのを考えています。

以上で終わります。